

小学校外国語活動

相手意識をもち、自信をもってコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する
英会話指導の在り方

～小中の円滑な接続を可能とする文字指導を通して～

水戸市立千波小学校 家村倫子

1 主題設定の理由

小学校指導要領解説外国語活動編には、外国語の目標の要点として「コミュニケーション能力の素地を養うこととし中学校との連携を図ること（文科省，2008年，p.6）」と記されている。主に、外国語を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点を置いている。このようなことを踏まえ、中学校の段階では「聞くこと」「話すこと」に「読むこと」「書くこと」を加え、小学校における外国語活動ではぐくまれた素地の上に、これらの4つの技能を総合的に育成し、「コミュニケーション能力の基礎を養うこと（文科省，2008，p.4）」を目標としている。

水戸市では、平成16年度から「水戸市幼小中英会話特区」として、平成21年度からは小中学校で「教育課程特例校」として、全学年で英会話教育に取り組んできた。幼稚園では「英語に慣れる」小学校低学年では「英語に親しむ」中学年では「英語に慣れる」そして、高学年では「英語を使う」ということを中心に取り組んできた。これらのことを経て中学校で4つの技能の育成を図るのだが、中学校に入学して間もない時点ですでに個人差があるのが現状である。アルファベットに関しては、平成26年5月の時点で学年の3分の2の児童のみしか書けず伸び悩んでいる（千波中学校第1学年101名）。また、先の児童が第6学年だった時のアンケートでは、83%（84人）の児童が英会話が好き、どちらかという如果喜欢と答えていたのにもかかわらず、中学校に入学して1か月過ぎた時点では、79%（80人）と減少に向かう傾向にある（付録1，2）。これは、小学校段階での活動では「聞くこと」「話すこと」の言語活動に重点を置くこととされているが、中学校外国語科では、これらの2つの技能と同時に「読むこと」及び「書くこと」も取り扱うことから、中学校に入学した段階で4つの技能を一度に取り扱う点に指導上の難しさがあるのではないかと考えた。このようなことから、小学校高学年より、「書くこと」「読むこと」につなげるために、文字と音声を意識させた活動を取り入れることで、中学校との円滑な接続が図れるのではないかと考え本主題を設定した。

2 研究のねらい

小中の円滑な接続のために、第5学年の“Introducing Senba”において、「書くこと」を取り入れた授業の実践やアンケートを通して、小学校外国語活動における文字指導の有効性について究明する。

3 研究の仮説

新しいAETを聞き手とした“Introducing Senba”での「書くこと」における小中の円滑な接続を可能とする文字学習を通して、第5学年児童が相手意識をもち、自信をもってコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができるようになるであろう。

4 研究の方法

研究の調査方法としては、アンケートによる児童、生徒の英会話活動への意識、

第5学年児童の文字に対する意識の変容，授業における書く活動及び読む活動における教師，AET，ボランティアによる観察によって，究明するものとする。

5 研究の内容

(1) 基本的な考え方

小中の円滑な接続に向けての基本的な考え方として，相手意識と小中連携を意識した文字指導が重要であると捉える。

①相手意識について

学習指導要領解説国語編には，国語科の最も基本的な目標である「表現力と理解力とを育成するとともに，人間と人間との関係の中で，互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高めること（文科省，2008，p.9）」を位置づけている。外国語活動でも同様のことがいえるであろう。外国語活動でも，自分の気持ちを相手に伝え，相手の主張や気持ちを理解し接点を見い出していくことが大切である。そのため，言語を適切に使えることに加えて，伝えるための工夫や努力が必要とされる。これらは，「相手意識」をもつことにより生まれる。つまり，これはコミュニケーション能力であり，小学校英語活動で育てたい力である。すなわち，まずは日本について正しく知るとともに，自分の考えや主張をもち表現すること，そして外国の文化を認め，外国人と違和感なく付き合うことができるようにしなければならない。そのためには，コミュニケーションを楽しむこと，英語を聞き取ること，英語を活用して表現すること，そして外国の言葉や文化を直接体験し親しむことが重要になる。英語の楽しさを実感するコミュニケーション活動によって子どもは英語で自分のことを相手に伝え理解してもらい喜びを感じ，外国人とコミュニケーションする意欲をはぐくむ。そして，もっている知識や能力をもとに積極的に自分の気持ちを表現し，理解し合えるまでになると考える。

②小中連携を考えた文字指導について

小中が連携し，継続的な英語教育を行うには，小中の教員が互いの教育内容や指導方法，さらには，小中連携の在り方について共通理解を図ることが重要である。水戸市では，小学校・中学校の教員の相互の授業参観を奨励している。また，年に数回情報交換の場を設けている。そこで分かるのは，教師の意識の違いである。「小学校英語活動を通して育てたい態度・育ってほしい態度・技能」についてどの程度重要に考えるか千波小職員（25人）・千波中の職員（11人）5段階で評価し回答してもらった（表1,2）。

表1 小学校英語活動を通して育てたい態度・育ってほしい態度

	小学校(25人) 中学校(11人)	
	平均	平均
①相手の目を見て話す。	4.70	4.67
②ジェスチャーを付けて話す。	4.10	4.00
③表情豊かに話す。	3.72	4.22
④誰とでも積極的に会話する。	4.51	4.75
⑤会話をつないでいこうとする。	3.65	3.98
⑥AETの話をつかろうとする。	4.00	4.23
⑦外国の人に積極的に話しかける。	4.10	4.00

注：最大値＝5.00 最小値＝1.00

表 2 小学校英語活動を通して育てたい技能

	小学校(25人) 中学校(11人)	
	平均	平均
①簡単な英単語の文字を見て意味が分かる。	3.30	3.24
②簡単な英単語を正しく発音する。	3.72	3.54
③ローマ字を習得する。	3.56	4.24
④アルファベットを読む。	3.65	4.43
⑤アルファベットを書く。	3.22	3.58
⑥簡単な英文を書く。	2.00	2.52
⑦A E Tの話の理解	3.96	3.62

注：最大値＝5.00 最小値＝1.00

「態度」の育成については、小中教員とも「4」前後の評価がされているに対して、「技能」面については、低く評価されている。小学校の英会話活動の目標が「コミュニケーションを図ろうとする態度の育成」や「英語に慣れ親しむこと」に重点を置いていることから、このような結果が出たものと思われる。いっぽう「アルファベットを読む」「ローマ字を習得する」などの項目で、中学校教員が小学校教員に比べ重要度を高く評価しており、文字指導に関して小中教員の間で意識の違いがあることが明らかになった。特に、中学校英語科教員は、アルファベットを読むことや書くこと、ローマ字の習得など、中学校の「読むこと」や「書くこと」に繋がる技能を小学校の英会話活動で育ててほしいと願っていることが分かる。中学校の英語学習にスムーズに移行していくためにも、今後、小学校外国語活動における「望ましい文字指導の在り方」を検討していかなければならない。

(2) 主題迫るため場の工夫

①相手意識をもつための場の工夫

ア 相手意識をもつ場の設定

- ・新しく迎えた AET へ伝えるという単元の課題設定
- ・課題解決のためのインタビュー活動
- ・「伝える」ことに視点を置いた発音練習

イ 話合いの場の設定

- ・スムーズに話合いを進めるためにリーダー児童を全グループに配置
(リーダー：英語を習っている児童，または英会話の学習に意欲的な児童)

ウ 表現する場の設定

- ・「書くこと」「話すこと」これらの活動のために HRT,AET からの助言と地域ボランティアの協力
- ・音声と文字との関係を意識しながらの発音練習
- ・アイコンタクト，声の大きさ，ジェスチャーなどを考えた発表

エ 評価し合う場の設定

- ・毎時間使用している自己評価カードの使用
- ・目的に応じた自己・相互評価の場

②小中連携を考えた文字指導の工夫

児童の多くは、英語を「見る」経験はあっても、「読む」経験はしていない。

また、見よう見まねで、英語を「書く」ことはしても、書きたいことを「書く」経験をしていない児童が多い。

中学1年生のアンケートによると、小学校と中学校での英語学習の違いについて聞いたところ、「読むこと」については、後に述べる取組みの詩の暗唱で、英文で書かれたセンテンスを見ながら学習してきたこともあってか、あまり違和感はないようである。一方「書くこと」に関しては、94%（95名）の生徒が違いを感じていた（付録2）。そこで、千波小学校として音声と文字との関連性を考えた学習の取組みと、方法について考えてみた。

ア 詩の暗唱

水戸市が、「幼小中英会話特区」とされた平成16年度より、千波小学校は「ライム」という名称のもと、詩の暗唱を行っている。内容は、主にマザーグースからの引用で、各学年各学期ごとに1つ詩を覚えている。目的は、同じ韻を繰り返すことによる言葉遊びや早口言葉などを毎時間繰り返すことで、英語を口にすることに慣れるためである。授業時間には、ライムが書いてあるボード(図1)を見ながら、AETが一つの単語の発音や文としての発音（Humpty Dumpty sat on the wall.など）に視点を置いて指導をしており、学期の終わりには学級の90%の児童が言えるようになっている。低学年は、動作を付けながら、高学年は手拍子をしながら覚えるなど英語のリズムを大切にしている。また、英会話室の廊下には、全学年のライムが掲示されており(図2)、日頃から英語が児童の目に触れるようにしている。



図1 AETによるライムの指導の様子



図2 ライムの掲示物

イ 方法の検討

- ・相手意識・目的意識に応じた単語や文を書く学習（実践）
- ・相手に伝えるために英語で伝える学習（実践）
- ・フォニックスを取り入れた学習
- ・Hi, friends!を使用した学習

(3) 授業の実践

- ① 単元名 新しいAETに「千波」を英語で紹介しよう “Introducing Senba”
- ② 対象児童 第5学年 127名
- ③ 授業時数 全6時間（2014年4月30日～2014年5月21日）
- ④ 指導に当たって

千波小学校のAETは、今年度来日した新しいAETである。早く日本での生活に慣れたいというAETの思いと、早くAETの先生方と親しくなりたいという児童の

思いを汲み、第5学年の年間指導計画にある4・5月の自己紹介に合わせて、この単元を設定した。また「千波」を紹介するに当たって、既習の単語やフレーズだけでは表現できないものがある。それらの単語やフレーズは、「聞いたことはある」「言ったことはある」「でも書いたことはない」という単語もたくさんあるのが現状である。それらの単語やフレーズを書いたり話したりすることにより、英語の音声と文字を関連付ける意識が高まるのではないかと考えた。

本校の第5学年の児童は、現在までに3人のAETと英会話の学習に取り組んできた。給食や休み時間など日常生活でもAETと過ごすことが多く、他国の人とコミュニケーションをもつことが自然にできる。児童の英会話に対する実態調査と「書くこと」についての興味・関心を把握するアンケート（付録3参照）によると英会話を習っているという児童が第5学年においては40%（51人）おり英会話に対する関心度が高い。「英語で書いてみたいと思うことがあるか」という質問には75%（95人）の児童が書いてみたいと答えており、「書くこと」にも意欲的である。書きたいことは、ポケモンなどの人気キャラクターの名前や好きなスポーツ、また自分の興味のあること、手紙などだった。しかし、実際には、自分の名前を英語で書ける児童は24%（31人）と少ないのが現状である。「話せるけれど、書くことは難しい」という児童の声も聞かれ、小学校から中学校への「書くこと」における円滑な接続への難しさを感じている。

そこで、この単元では、身近な題材である「千波」について音声と文字を関連づけながら学習していき、児童の「書くこと」における抵抗感を少しでも軽減したいと考えた。また、発音しながら書くことで文字と発音の関連性に気付く力を育てたいと考え、単元を設定した。

⑤ 単元の目標と評価の観点

- 紹介に使う英語表現を知り、積極的に使おうとする。 【関心・意欲・態度】
- 相手意識をもって「千波」の紹介を英語で書いたり、話したりしようとする。 【コミュニケーション能力】

⑥ 授業計画

㊦ 相手意識をもつ場の設定 ㊧ 話合いの場の設定 ㊨ 表現する場の設定 ㊩ 評価し合う場の設定

	学習活動	指導上の工夫
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">リサ先生とライアン先生に千波のことを紹介しよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習の流れを確かめよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 AETの自己紹介を聞く。 2 単元の学習課題を確認する。 3 学習過程の見通しをもつ。 4 グループを編成する。 	<p>㊦ AETの紹介を聞いたりAETに質問したりすることで相手意識をもつようにする。</p> <p>㊧ 英会話のアンケートをもとにリーダー的な児童をグループに配置する。</p>
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">紹介することを決めよう。</div> <ol style="list-style-type: none"> 1 ライムの練習をする。 2 本時の課題を確認する。 3 紹介することを決める。 	<p>㊦ AETの知りたいことを前もって教師が確認しておく。</p> <p>㊧ 紹介したいことの収集方法を考えて自主的に進められるようにする。</p>

3	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">紹介したいことをインタビューしたり調べたりしよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ライムの練習をする。 2 本時の課題を確認する。 3 インタビューや調べ学習をする。 	<p>㊦ インタビューをするグループは受け答えについて、調べ学習のグループは伝えたいことを簡潔にまとめるようにする。</p>
4	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">紹介したいことを英語でまとめよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ライムの練習する。 2 本時の課題を確認する。 3 紹介したいことを英語でまとめる。 4 自己評価をする。 	<p>㊦ 英語でまとめながら、綴りや発音の仕方に興味をもてるような助言や発問をする。</p> <p>㊧ 紹介したいことを英語で書いてみてどのようなことに気付いたかなど「書くこと」に視点を絞って自己評価するよう促す。</p>
5	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">紹介したいことをうまく伝える練習をしよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ライムの練習をする。 2 本時の課題を確認する。 3 紹介したいことを英語で話す練習をする。 4 自己評価・相互評価をする。 	<p>㊦ ㊧ 録音した自分の声を聞くことにより、相手に伝わる発音または話し方ができているか確かめる。</p> <p>㊦ 綴りを見ながら発音することで、音声と文字の関係を意識するよう助言する。</p> <p>㊧ 自己評価はもちろん友達からのアドバイス、友達へのアドバイスを通して相手に伝えるためのより良い話し方について考えるよう助言する。</p>
6	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">リサ先生とライアン先生に千波のことを英語で紹介しよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時の課題を確認する。 2 千波について英語で紹介する練習をする。 3 千波の紹介を英語でする。 4 自己評価・相互評価をする。 	<p>㊦ AETに伝わるように話すことを意識するよう声をかける。</p> <p>㊦ アイコンタクトや声の大きさ、発音の仕方を意識しながら発表させる。聞いている児童にも意味が分かるように絵を描いたボードやジェスチャーを使って発表する。</p> <p>㊧ 評価の視点を明確にすることで、目的に応じた評価ができるようにする。</p>

⑦ AET との授業打合せ

AETは、生きた英語の提供者として、発音やリズム、イントネーションなどできるだけ自然に正確に示すとともに、日本人的な英語発音も許容する姿勢をも

ち、子どもに英語が通じた喜びや外国人と話せたという自信をもたせる体験ができるようにすることが大切である。

千波小学校では、毎時間、AETと授業の進め方、主な活動、発音練習の仕方などについて話し合う時間を設けている。そこで、AETの要望や考えなどを取り入れて授業を構成している。また、毎時間の授業プランを各学年の英会話部員が作成し、変更したところなどをその度加えていくことでよりよい授業を実施できるよう心がけている。

⑧ all English の授業

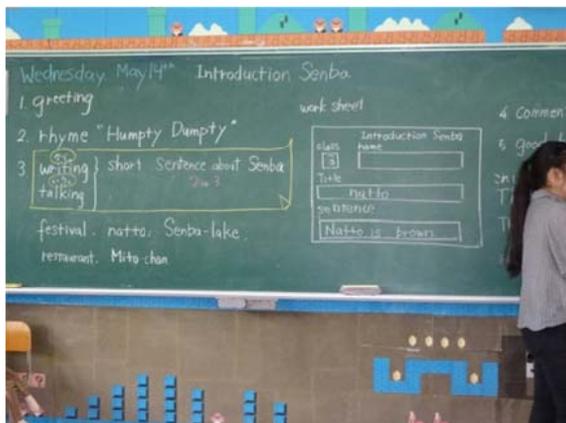


図4 授業の板書

千波小学校は、イングリッシュルームがある。ここでは、「英語で話そう」というルールがある。児童はもちろん、HRTも指示ばかりでなく、ゲームなどの活動の説明も英語で行うよう心がけている。高学年においては、板書も英語で書いている（図4）。英語では難しいと思われることは、ジェスチャーやデモンストレーションによる補足的な説明を加えながら授業を行っている。

⑨ 授業の展開

○ 本時の目標

AETに紹介したい「千波」について簡単な英語を使って書いたり発音したりしようとする。

○ 準備・資料

イングリッシュカード、ワークシート、録音機器

○ 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
<p>1 始まりの挨拶をする。 A: Good morning. B: Good morning. A: How are you? B: I'm fine thank you and you? A: I'm fine too thank you. How, What~?</p>	<p>・慣れたあいさつをすることで、一人一人の児童に自信をもたせ、活動の意欲付けをする。</p>
<p>2 詩の暗唱をする。 “Humpty Dumpty”</p>	<p>・児童とともにジェスチャーを付けてゆっくりはっきり発音する。</p>
<p>3 AETに紹介したいことについての単語の発音練習をする。 festival, natto, Lake Senba, good restaurants, Mito-chan</p>	<p>AET ・発音の仕方が分かるようにはっきりと発音する。</p>

<p>4 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>AET の先生方に紹介したいことを簡単な英語で書いてみよう。</p> </div> <p>(1) HRT と AET のデモンストレーションを見て、活動内容を確認する。</p> <p><natto> brown, stinky, sticky, yummy</p> <p>5 紹介したいことを英語で書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Introducing Senba</p> <p>Class name</p> <div style="display: flex; gap: 10px;"> <input style="width: 30px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 150px; height: 20px;" type="text"/> </div> <p>title</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 150px; margin: 5px auto;">natto</div> <p>my sentence</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 150px; margin: 5px auto;">Natto is brown.</div> </div> <p>6 振り返りをする。</p> <p>(1) イングリッシュカードに振り返りを書いて発表する。</p> <p>(2) 先生方の感想を聞く。</p> <p>7 終わりの歌を歌う。</p>	<p>HRT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時は、紹介したいことを書く学習であることを伝える。 ・活動について例を黒板に書き、英語でデモンストレーションする。 <p>HRT, AET, Volunteer</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文の構成や発音などが分からなかったり不安な児童には、共に書いたりゆっくり発音することによって安心して活動に取り組めるようにする。 ・進んでいる児童には、発音の練習を録音し、自分の発音などを振り返りながら工夫できるよう促す。 ・支援を要する児童には、アルファベットの書き方や綴りについて助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>簡単な英語を使って書いたり発音したりしようとする。 (コミュニケーション能力) ワークシート・観察</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・HRT とともにデモンストレーションする。 <ul style="list-style-type: none"> ・良かった点を取り上げるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組んだことに賞賛をすることで本時の活動に満足感をもたせ、次時への意欲につなげる。
--	--	---

(4) 授業の分析と考察

① 相手意識をもつための場の工夫

本單元において、AET に「千波」のことについて伝えるということにより、児童は相手意識をもちながら意欲的に学習に取り組んだ。本單元終了後(H26.5.14)、AET に「千波」のことを知らせるために何を参考にしたかというアンケートを実施した。

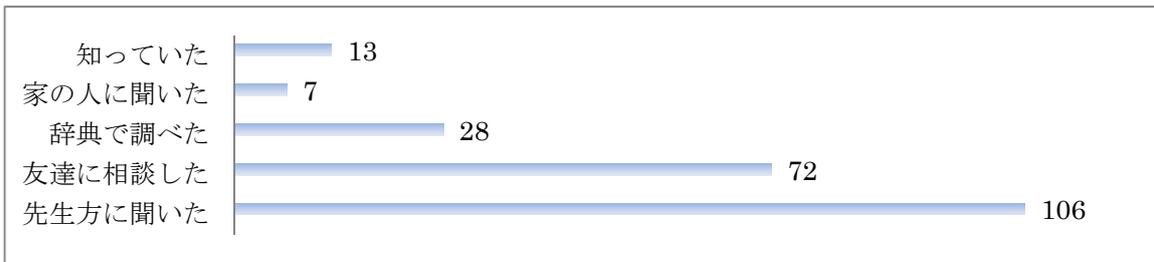


図 5 「英語で書くために参考としたものは何ですか」への回答（複数回答可 127 人）

AET に千波のことを伝えるために、児童は様々な方法で活動に取り組んだ。今までの学習活動では見られなかったこととして、和英辞典の活用があった。今まで英単語や決まったフレーズの練習が多く、覚える学習が多かった。しかし、今回は文を作る活動だったので自然な流れで辞典を活用するようになったと考えられる。また、全グループにリーダー児童を置いたことで、話し合い活動がスムーズにできた。さらに、方法の中で一番多かったのは、「先生方に聞いた」ことである。児童の反省の中には「先生が 4 人もいたので安心だったし楽しく英語が書けた」と書いている児童がいた。

このように、児童が様々な方法で意欲的に活動に取り組んだ理由として考えられるのは、AET に伝えなければならないという「相手意識」によるものだと考える。今までの覚える活動を経て、作る活動に取り組むことにより、辞典の活用や文の構成をはじめ「伝える」ための正しい発音や単語の綴り、リズムカルなスピーキングの必要性を感じたためであろう。また、英会話の授業では、ネイティブの英語を聞くことができるという利点がある。AET に授業を一任するという英会話の授業実態もあるなか、児童が、分からない言語を用いて学習活動をする上で、HRT や日本語が分かる教師の役割が大変重要であることが分かった。

② 小中連携を考えた文字指導の工夫

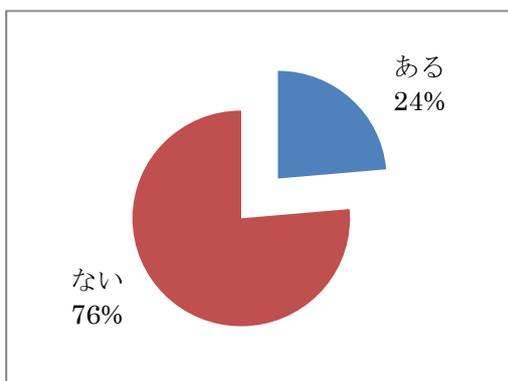


図 6 「伝えるために英語を書いたことがあるか」への回答（127 人）

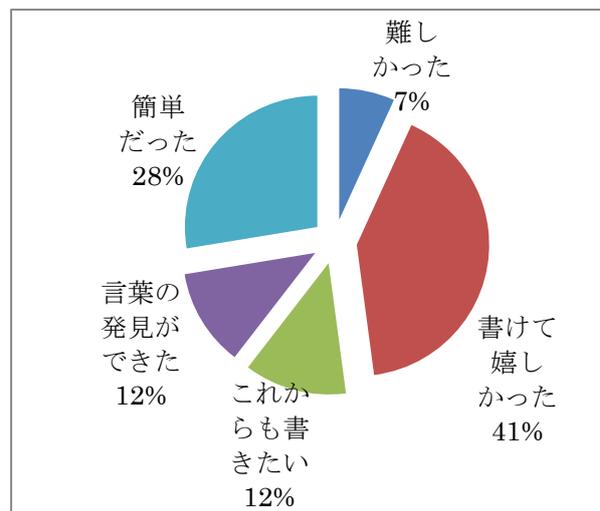


図 7 「英語で書いてみてどうでしたか」への回答（127 人）

今回の「英語を書く」学習活動は、児童にとって難しかったようである。児童の 76% (97 人) の児童が目的意識をもって英単語や文を書く経験をしたことがないのが現状であり (図 7), 「英語で書くこと」は難しいと感じるかという質問においては 91% (116 人) の児童が難しいと感じていた。しかし、学習を

終えてみると、「思ったより簡単に書くことができた」「難しかったけれど書いて嬉しかった」という達成感をもった児童が出てきた（図8）。児童にとって目にしたことがある、または聞いたことがある身近な英語であったことが書きやすさの理由の一つだと思われる。それに加え、AETや地域ボランティアのアドバイスを和英辞典の活用も書きやすさの要因であると考えられる。ほかにも、文字や文の構成にも興味をもった児童も出てきてことから、小学校の英会話活動において「書くこと」を少しずつ取り入れていくことは、中学校外国科への足がかりとして大切なのではないかと考えた。

<児童Aについて>

英語を話すことは得意だと言っていた児童Aに本単元の目標は「書くこと」とであると伝えると「話せるけれど書けない」と当初は不安そうにしていた。しかし2時限目になると、「千波小学校に通う自分たちのことを紹介したい」と提案し、「読書が好き」「サッカーが好き」と日本語で書き始めた。「I like は習ったけれど、読書はどう書くんだろう？」と言いながら辞典で調べ始めた。児童用辞典に“reading books”と書いてあったようで「日本語では一つの単語なのに英語だと二つの単語を書くようなんだ」と興味深そうにしており、英語を書くことへの意欲が湧いてきた様子であった。発表では、カードに描いた絵をもとにジェスチャーを付けて発表し（図9）、友達からも「英語っぽく聞こえた」「僕もサッカーが好きなので、あとで書き方を教えてほしい」などの賞賛を受け、自信を付けていた。



図8 児童Aの学習カード

今回の学習では、児童の文字に対する気付きやつぶやきが多かった。「are」はローマ字読みだと「あれ」だが英語で読むと「アー」と読む発想や、英語でも日本語でもいっしょの言葉でもアクセントが違うということが分かったと伝えるに来るなど、「書くこと」と同時に「読むこと」への興味・関心も広がったようである。これは、今までのような覚える英語ではなく、試行錯誤しながらの学習活動であったため、友達との話合いやHRTやAETまたはボランティアのアドバイスを得ながら学習したためかと思われる。AETや地域ボランティアからは、小学校5学年の児童には既習の英単語ばかりではなかったのが難しかったのではないかというコメントがあった。しかし、今回は「相手意識」ということを基本的な考え方としている。そのため、児童にとっては身近な内容ではあったものの既習の英単語ばかりではなかった。今後は、既習の単語を使える文構成の学習や児童の興味・関心のある内容で、さらに「書くこと」への意欲が向上するような学習活動の在り方を工夫していきたい。

6 研究のまとめ

小学校第5学年の新しいAETに向けた“Introducing Senba”において、文字指導を取り入れた授業を実践することにより、小中の円滑な接続を可能とする取組みとしての小学校外国語活動を考察した結果、次のことが明らかになった。

- (1) 外国語活動はじめ言語活動において、相手意識をもちながら学習することは、コミュニケーション能力を高めるために有効であった。
- (2) 小学校での児童同士、教師やボランティアの支援を得て行う「書くこと」を中心とした学習により、語彙の広がりや、文字・音声の関係に焦点を当てる授業ができた。
- (3) 小学校高学年における英会話の学習の中で、文字を扱う際に、気付いたことや興味をもったことを教師が丁寧に取り上げながら活動を促すことで、児童への文字に対する負担感が軽減されると感じた。

なお、水戸市は幼小中英会話特区であり、小中学校においては教育課程特例校として現在に至っている。AETの養成も組織的に行われており、月に2回のAET向けの研修が設けられている。また、千波小学校においては、英会話に対する保護者の関心も高く、帰国子女や英語圏出身の両親をもつ児童も学年に数名いる。地域ボランティアの活動も盛んで、授業のボランティアばかりでなく、英語の朝の読み聞かせも月に1～2回行っている。さらに、千波小、千波中は一小一中なので今回の実践やアンケートにおいても容易に行うことができた。このような恵まれた環境の中での実践であったということを加えておきたい。

7 今後の課題

- (1) 相手意識をもつ場の設定やフォニックスを取り入れた文字学習の工夫を研究し、継続性のあるものとしていきたい。
- (2) 「書くこと」を中心とした学習活動における、教師やボランティアの支援の確保や活用の仕方について研究する。
- (3) 中学校との情報共有や授業交流による実態把握と小中学校の一層の連携の強化に努める。

<引用文献>

- 1) 文部科学省. (2008). 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 東洋館出版社
- 2) 文部科学省. (2008). 『小学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社
- 3) 文部科学省. (2008). 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 開隆堂

<参考文献>

- 1) 金森強. (2008). 『小学校の英語教育指導者に求められる理論と実践』 教育出版
- 2) 北原 延晃. (2010). 『英語授業の「幹」をつくる本 上巻』 (株) ベネッセコーポレーション
- 3) 高島英幸. (2014). 『児童が作る課題解決型の外国語活動と英語教育の実践 プロジェクト活動のすべて』 高陵社書店
- 4) 水戸市総合教育研究所 『平成25年度水戸市幼・小・中英会話教育事業報告書』
- 5) 萬谷隆一・直山木綿子・卯城祐司・石塚博規・中村香恵子・中村典生. (2011). 『小中連携 Q&A 小学校外国語活動と中学校英語をつなぐ40のヒント』 開隆堂

< 付録 1 >

アンケート 1

H25.3.1 (第 6 学年児童対象)

英会話活動についてのアンケート

- ① 英会話は好きですか。
 - ・好き
 - ・どちらかというところ好き
 - ・どちらかというところ好きではない
 - ・好きではない
- ② ①でこたえた理由
- ③ 中学校の英語ではどのようなことができるようになりたいですか。
 - ・聞くこと ・話すこと
 - ・読むこと ・書くこと

< 付録 2 >

アンケート 2

H26.5.7 (中学一年生対象)

英語の学習についてのアンケート

- ① 英語の学習は好きですか。
 - ・好き
 - ・どちらかというところ好き
 - ・どちらかというところ好きではない
 - ・好きではない
- ② ①でこたえた理由
- ③ 小学校の英会話と中学校の英語は違うと感じますか。
 - ・はい ・いいえ
- ④ 「はい」と答えた人は、どんなところが違うと感じますか。
- ⑤ 英語を学習していく上で、できるようになりたいことは何ですか。
 - ・聞くこと ・話すこと
 - ・読むこと ・書くこと

< 付録 3 >

H26.4.30 (第 5 学年児童対象)

英会話についてのアンケート

- ① 名前 (英語で書ける人は英語で書きましょう。)
- ② 英語を習っていますか。 ・はい ・いいえ
- ③ 聞いたことがある、見たことがある英語があれば書いてみましょう。
- ④ 英語で書いてみたいものはありますか。 ・はい ・いいえ
- ⑤ ④で書いてみたいと答えた人はどんなものを書いてみたいですか。

< 研修を終えるにあたって >

茨城大学での研修では、これまでの教育活動を振り返り、これから教師としての在り方を考える貴重な経験となりました。大学の講義の拝聴や新しい出会い、研究発表会等の参加など、日頃できない経験ができました。また、2020年度をめぐりに実施されるであろう英語教育の正式な教科化に伴い、常々課題に感じていた「小中連携」について、書籍や文献に触れたり、水戸市内の小中学校に訪問し授業参観したりできたことは貴重な体験となりました。

この研修を進めるにあたり、茨城大学の先生方には、丁寧にご指導いただきましたことに感謝申し上げます。指導教官の斉藤英敏先生には、ご多用にもかかわらず講義をはじめ研究の方向性や研究に結びつくご指導をいただきました。心より感謝とお礼を申し上げます。

最後に、このような貴重な研修の機会を与えてくださった茨城大学、茨城県教育庁義務教育課、水戸教育事務所、水戸市教育委員会の先生方、そして、研修の機会と多大なご理解とご配慮をいただきました水戸市立千波小学校長瀧ヶ崎正彦先生、前校長竹内修先生をはじめ諸先生方に深く感謝申し上げます。